

Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

CONTENTS

共同出展レポート

定例セミナー第4弾、第5弾

海外出展・視察ツアー

12月の活動予定

ご案内／セミナー参加申込書

Vol.4 2007年12月1日発行

■発行・編集／(株)農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局（担当：長谷川）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

共同出展レポート

読者16団体が共同出展、 新たな取引先に売り込み！

読者の会では、11月21日に商談会への共同出展を実施した。出展先は東京都立産業貿易センターで開催された「加工・業務用野菜産地と実需者との交流会」（主催 独農畜産業振興機構）。参加16団体は、新たな取引先を求めて売り込みをはかった。

「今後につながりそうな出会いがいくつかあった。それなりに手応えは感じている」と語るのは(有)グリーンファームシテイの澤田清一さん。「名刺交換した中であらうかと思ってみたいところは3、4社ほど。どう発展させるかはまだまだこれからだが、なかには200店舗を展開する外食チェーンもあり、期待している」と成果を語った。

岩瀬ファームの岩瀬栄一さんは、商談会への参加が初めてだという。今回は具体的な進展はなかったものの、「これまで面識のなかった方とも接点を持つて、いろいろなお話ができた。こういう場に初めて出展してみて、次へのステップへ向けていい勉強になった。安い出展料で、とてもいい体験を

させてもらえました」と語る。サンプルの出し方や商材の見せ方、どうすれば足を止めてもらえるかなど、他ブー

スの展示も参考になったとしている。

読者の会ブースに委託出展された石塚賢治さんの長葱を、食品会社のバイヤーがひと目惚れ。その場で本人の携帯に連絡し、圃場訪問の約束を取り付ける一幕もあった。商品の長葱について石塚さんは、「今年は業務用が不足していると聞いていたので、土寄せを念入りにして白い部分を最低45cmにな

るように作った。品種は扇系一本。青味をより青く、白味をより白くするために、リン酸成分の多い施肥設計をしている」と語っている。

一方では手厳しい意見も。「来場者が少なく、目当てとしていた外食関係者とはほとんど話ができなかった」と(株)アグリアドバンス営業部長の小澤浩二さん。確かに会場への客足が鈍かった。別のフロアで同時併催のイベントがあり、そちらで来場者の足が止まってしまうのか人が流れてこない。「いい会場、いいイベントでなければ参加する意味はない。今回は収穫がなかったかな。いいイベントなら今後も積極的に参加したい」と話していた。

商談会の選定、出展者へのサポート体制など、改善すべき事項は多い。読者の会では、これらを蓄積して、今後も商談会への出展を続ける。



食品会社のバイヤーが一目惚れした石塚さんの長葱。



「初めて出展してみて、次へのステップへ向けていい勉強になった」と参加者から。

定例セミナー第4弾!

群馬県昭和村から、青森、静岡へ

10月25日、(株)野菜くらぶ代表取締役澤浦彰治氏を迎えてセミナー開催!

3名で始めた(株)野菜くらぶは現在54名、今年の売上高はグループ連結で約17億円。ここまでの道のりを代表取締役の澤浦彰治氏が語った。

同氏は84年に就農。家業のこんにやく経営を手伝うが、88年に相場が暴落。肥料代も払えず借金も返せない状態で、残ったこんにやく芋と家庭用ミキサー5台でこんにやくの加工販売を始めた。営業先のスーパーで、提案された農薬を使わない野菜づくりに、同じような「お先真つ暗」の3人が集まった。

今から考えれば3人という小人数がよかった。畑で運送屋に出荷すると、3人は「どうする?」という言葉からはじまって、農業問題や将来について徹底的に議論し、それが後の野菜くらぶの理念になった。地域で集まらず、理念が同じ仲間しか入れない姿勢は今も同じだ。また、当初から組合でなく会社組織にしたことで組織が大きくなっても、個人の役割を尊重し、設立当初の志を貫いている。その後、モスフードサービスへの飛び込み営業から、トマトとレタスの出荷を開始し、法人

化、最初の社員の雇用へと話は続く。

その後、夏場のレタスが足りず、担当者「野菜くらぶの生産者は頑張っているが、会社組織としては何をしていくのか?」と問われて悩む。そこに農業で独立したい人を受け入れて支援したいという想いが重なった。02年、夏場のレタスの安定供給のために、青

森の第二農場(南サニタスガーデン)を設立。さらに通年供給のために冬の産地として、06年静岡に(株)サングレイスを設立して現在に至る。

働く人が成長できる組織であり、生産者とお客様、そして株主にも感謝される、バランスのいい会社。それが同氏の野菜くらぶの将来像だ。



話交えて、仲間の言葉に、澤浦氏も涙を流す。取引先の感謝の言葉をあふれた講演だった。

定例セミナー第5弾!

コメ価格暴落後の日本の水田経営

本誌「土門辛聞」でおなじみの論客土門剛氏、11月9日セミナーで咆哮!



参加者は50名を突破。急遽、社外に会場を移してのセミナー開催となった。

本誌でコメ価格暴落をいち早く予見していた土門氏。事態が予測より早く来たという感想を漏らしつつ、「暴落は早く来たほうがいい。ドカンと来たほうが解決ははい」という。

どういう農家が潰れていくか。土作りしていない、行政のいうことしか聞いていない農家だ。残っていく農家は土作りの質が違う。買い手は土質や田

んぼを見て買っている。

米価を守るのに生産調整が大切なのは間違いない。ただ、売れる人も売れない人も同じにするのは間違いだ。そもそも生産調整の報告は嘘ばかりだ。

減反が100%実施されていけば、米価は落ちないのだから。

地代が1反あたり2万5千円なら、40町なら1000万円払う。こんなに苦しくなっても法人協会も稲作経営会でもない。東北のようにコメをやつていなくてはならない所ほど地代が高い。米価はコメの品質と産地で決まるのに、地代は兼業先収入で決まる。こんなおかしいことはない。地代にマーケットの論理が働いていないのだ。

来年も農家は皆コメを作るだろうが、再来年には冷静に考えて、そろそろやめはじめる。ところが農地を誰も引き受ける人がいない。そしたら今度は米価が上を向く。今年もそうだが、きちつと土づくりをしたコメの価格は落ちない。そして3年後には、そういうコメとカントリーに行くようなコメの、2つの価格体系に分かれるだろう。農地の価格は今、路線価格で決まっているが、本来はそうではない。そのうち路線価格が低くても土の条件のいいところが、投げ売りされるようになる。その時はまっとうな稲作経営者の最大のビジネスチャンスだ。



1/18 金

会場／(株)農業技術通信社内セミナー会場
開催時間／16:00～18:00

「2008年、野菜流通はどう変わるのか？」

【講師】小林彰一氏 農経企画情報センター代表取締役

1949年長野県生まれ。青果物など農産物流通を専門とするジャーナリスト。農産物流通のオピニオン情報紙『THINK & SAY』（新感性）を発行。著書に、『ドキュメント青果物市場』、『日本を襲う外国青果物』（いずれも森祐二名義・家の光協会）『野菜のおいしいランキング』（共著・晩聲社）など。本誌上で、「今年の市場相場を読む」を連載中。

ドバイ贅沢市場視察ツアー

2008年2月21日出発 6日間 554,800円 東京・大阪発（2名1室利用／お一人様）

*上記旅行代金には燃費サーチャージ・出国税は含まれておりません。別途お支払い下さい

■日程

#	月/日/曜	発着地/滞在地	現地時刻	交通機関	概要	食事
1	2008年 2月21日 (木)	大阪（関空）発	23:15	EK317	空路、ドバイへ (機内泊)	機内
2	2月22日 (金)	ドバイ 着	4:45 午前 午後	専用車	ドバイ市内の高級食材市場の視察 ・ショッピングモール ・スーパーマーケット ・伝統的なアラブ市場（スーク） ・世界唯一の7つ星ホテル「バージュ・アル・アラブ」にて夕食（ドバイ泊）	× 昼食 ×
3	2月23日 (土)	ドバイ 滞在	終日	専用車	ホテルにて朝食 ドバイ西部のフリーゾーン視察 ・港 ・通関施設 ・物流センター ・食品関連企業の視察 (ドバイ泊)	朝食 昼食 ×
4	2月24日 (日)	ドバイ 滞在	終日	専用車	ホテルにて朝食 ホテルより会場へ 「Gulfood2008」を視察（ドバイ泊）	朝食 ×
5	2月25日 (月)	ドバイ アブダビ アブダビ 発着 ドバイ 着	午前 午後	専用車 専用車	ホテルにて朝食 ホテルよりアブダビへ ・アラビア砂漠農業 ・灌漑施設等の見学 ドバイ市内観光	朝食 昼食 ×
6	2月26日 (火)	ドバイ 発 大阪（関空）着	深夜 2:35 17:20	専用バス EK316	ホテルより空港へ 空路、帰国の途へ 到着後、解散	機内

■日本発着航空会社：エミレーツ航空

*札幌、福岡 発着は追加料金がかかります。（札幌20,000円/片道、福岡15,000円/片道）

*飛行機ビジネスクラス利用追加料金 390,000円

■ご利用予定ホテル：グランド・ハイアット・ホテル

*一人部屋使用追加料金：118,800円 *オプションでデラックスリゾートホテル宿泊のコースあり

*バージュ・アル・アラブ宿泊プラン追加料金148,000円（2名1室利用／お一人様1泊当たり）

■食事：朝食3回、昼食3回、夕食0回（この回数に機内食は含まれません）

■最少催行人員：10名

■添乗員：添乗員は同行しませんが、現地係員と農業技術通信社社員がお世話いたします。

*詳しい旅行条件を説明した書面（パンフレット）をお渡ししていますので、事前にご確認の上、お申し込みください。

■研修企画：株式会社 農業技術通信社

■旅行企画・実施：近畿日本ツーリスト株式会社（担当：西原）管理番号：044907111046-K-BSP

国土交通大臣登録旅行業第20号、(社)日本旅行業協会正会員、ポンド保障会員、旅行業公正取引協議会会員

住所：〒130-0013 東京都墨田区錦糸3-2-1アルカイスト18階

TEL：03-6658-1031 FAX：03-6658-1032（営業時間：月～金曜日 9:15～17:00、土日祝日休み）

海外出展ツアー

Gulfood2008へ 7団体が出展エントリ

前回お知らせしたGulfood2008への出展者募集に、読者6団体からご応募を頂きました。11月16日には読者の会もあわせて、7団体がGulfood2008「日本パビリオン」にエントリしています。出展品目はコメ、野菜、その加工品、および健康食品など。

農林水産省の委託事業であり、出展者多数とのことで、全員が参加できるかどうかはわかりませんが、12月上旬の審査結果を待っています。現在、今年は視察して現地のニーズを見極めたいという参加者を募集しています。詳しくは左記詳細をご覧ください。お問合せは事務局まで。

聴ける。

毎月開催される『農業経営者』読者の会定例セミナーが、本誌HPで聴講できるようになりました。農場の成長・発展に役立つ情報源として、人材育成の教材として、是非一度お試しください。

↓ いますぐアクセス

<http://www.farm-biz.co.jp/semi/>



12月の活動 セミナー

農業経営者や関連業界人の自己研鑽や人材育成、情報交換、人脈構築に役立つセミナーを毎月（年間20回以上予定）開催。定期購読者の方は参加費無料です。

12/14 金

会場／(株)農業技術通信社内セミナー会場
時間／16:00～18:00



「戦後農政を総括する」
【講師】大泉一貫氏
(宮城大学大学院教授)

PROFILE●1949年宮城県生まれ。東京大学大学院修了。農学博士。食・農・むら・コメから日本社会を展望する評論活動を展開する一方で、農村と都市を結ぶネットワーク作りにも関わる。著書に『ニッポンのコメ』（朝日新聞社）、『個の時代のむらと農』（農林統計協会）など。経済財政諮問会議のメンバーとして、農政改革にも携わる。

農業が大転換期に来ている。その変化とは、現代の日本社会に適合しなくなった農業政策を変更せざるをえなくなった結果である。コメ仮払金7,000円ショックを横目に、米政策改革大綱が粛々と進む中、大泉氏に戦後農政の過程を分析解説してもらうことは農業経営者たちの事業展開に大きなヒントとなるであろう。

12/21 金

会場／(株)農業技術通信社内セミナー会場
時間／16:00～18:00



「自宅から3km圏・地続き90haの水田経営」
【講師】田中正保氏
(有)田中農場社長

PROFILE●1951年鳥取県生まれ。71年養豚主体の経営を開始。80年大豆・麦作を中心とした田中農場を設立。その後、養豚経営をやめ、稲作中心の経営に転換。経営面積92haで水稲75ha、大豆3.1ha、黒大豆2.5ha、小豆2haなどを生産・加工販売する。「ちゃんとした」土づくりと、農業経営を行なうことをモットーとする。

農地の集積は困難だと言う農業関係者がいる。しかし、農地を集積することも経営者能力のひとつである。田中氏は自宅から3キロ圏内に90haの農地を集積し、米、大豆、ネギ等を個人および業務用に高価格で契約供給している。そんな同氏の経営者能力そして人柄を学びたい。

申込は今すぐ!!

◎セミナー参加申込書 (FAX専用 0120-410-359)

■参加を希望するセミナーに☑して、必要事項をご記入下さい。

〈セミナー〉	〈セミナー終了後の懇親会〉	〈「食」のトレンドツアー〉
☐ 12/14 (金) 大泉一貫氏	☐ 参加 (18:00～20:00)	☐ 12/15 (土) (10:00～15:10) 参加
☐ 12/21 (金) 田中正保氏	☐ 参加 (18:00～20:00)	☐ 12/22 (土) (10:00～15:10) 参加
☐ 1/18 (金) 小林彰一氏	☐ 参加 (18:00～20:00)	☐ 1/19 (土) (10:00～15:10) 参加

※セミナー終了後には、(懇親会) (任意参加・会費1,000円) を予定しております。翌日には都内各地のイケてる「食」を食べ歩きする「食」のトレンドツアー (任意参加・有料) を実施します。セミナーと併せてご参加ください。

セミナー受講料：定期購読者無料（一般5,000円）※セミナーは事前申込制です。

☐ 定期購読者（無料） ☐ 一般参加（5,000円）		月刊「農業経営者」 定期購読者 無料
☐ 1年購読18,000円（送料・税込） この機会に年20回以上予定のセミナーに無料で参加できる「農業経営者」定期購読を申込一		
(フリガナ) お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail		FAX
ご住所 〒		

お申込方法/FAX 0120-410-359まで送信してください。（農業経営者HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます）
お問合せ/（株）農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局TEL 03-3360-2697

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。